

# プログラム近況報告

2014年度(2013年10月1日～2014年9月30日)

World Vision

この子を救う。未来を救う。

## タイ王国 タプラヤ地域開発プログラム(THA-191642)



成績の良いサオワレーちゃん(13歳)のところに友だちがよく質問に来ます



学校から帰ると祖母を手伝って販売用の焼き鳥を焼きます

### チャイルドストーリー

## 父親のようなスポンサーの温かい支援に支えられ、夢に向かって勉強するサオワレーちゃん

タプラヤ地域開発プログラム(以下、ADP)の支援地域に住むサオワレーちゃんは祖母と暮らしています。両親はサオワレーちゃんが幼い時に別れ、祖母に養育を頼んで去って行ったと言います。以来、祖母のトンさんは、農業と焼き鳥販売で生計を立てながら、どんなに疲れて貧しくても、サオワレーちゃんの幸せな将来を願いつつ一人で子育てをしてきました。サオワレーちゃんはそんなトンさんに感謝しつつも、両親がいないことを寂しく思っていたと言います。

しかし、3年前にワールド・ビジョン(以下、WV)のチャイルドとして登録され、サオワレーちゃんは父親のようなスポンサーのTさんと会うことができました。Tさんからの温かい手紙と支援に励まされ、サオワレーちゃんは学校で一生懸命勉強し、教師になるという夢を叶えたいと思っています。Tさんが支援地域まで会いに来てくださった時の写真と、これまでに送られた手紙を、サオワレーちゃんは宝物のように大切にしています。



日本からスポンサーが訪問してくださったことをとても嬉しく思っているサオワレーちゃん

## 教育プロジェクト

### 地域の将来を担う子どもたちの意識が向上してきています



青少年グループの数が増加

**2**グループ (2013年度) → **3**グループ (2014年度)

2013年度に引き続き、就学前教育の充実に力を入れました。これまでに支援してきた4校の幼児発達センターに加え、2014年度は新たにもう1校での支援を開始し、教員の研修や教具の支援、保護者対象の啓発活動を行いました。小中学校5校でも教員の研修や、職業訓練のための機材の支援などを行っています。

また、将来の地域を担う青少年グループの育成にも力を入れています。2014年は、3つのグループが子どもの権利やライフ・スキル\*について学んだり、様々な社会奉仕活動に取り組みました。グループの活動を通して、メンバーの自尊心や意思決定をする責任感が高まっています。

※ライフ・スキル:問題解決法、コミュニケーション・スキル、対人関係、チームワーク、決断の仕方、計画性など、生きていく上で必要な知識・技術。



青少年グループでの活動の様子

## 経済開発プロジェクト

### 収入向上のために多角的に取り組んでいます



子どもを抱える世帯の**79%**が有機農法を導入

乾期には水が枯渇してしまう地域であるため、農業用水の確保は収入向上の鍵ともいえます。住民との話し合いを経て、2014年度は1カ所の貯水池建設を支援しました。

また、2013年度から環境にやさしく経済的にも負担が少ない有機農業の推進に取り組んでいますが、2014年度は子どもを抱える世帯の79%が、実際にこの農法を導入しました。今後、品質と安定した収穫が得られることで、農民

の間に定着し、発展することが期待されています。収入向上のために組織されたグループの数は、2014年度8つになり、養豚や養鶏、手工芸品の製作などに取り組んでいます。

また、障がいを持つ人々も社会参加の機会から排除されないよう配慮して支援をしています。障がいを持つ人々自身の自助グループ結成を支援し、養鶏などの活動を通じて自らの力で収入を得て社会参加していけるよう働きかけています。



地域の水利利用に関して話し合う住民集会の様子



化学肥料の購入費を節約し環境に優しい農業を行うため、有機肥料の作り方を学ぶ地域の人々

## 保健衛生プロジェクト

国境を越えて広がる感染症予防や障がいを持つ人々のケアに取り組んでいます



**3,097**人がHIV/エイズと結核予防の研修に参加

カンボジアと国境を接するタプラヤ地区には、国境を越えてたくさんの人や物が流入していきます。同時に国境を越えて広がる感染症の危険にも常にさらされており、地域住民が感染症に対する知識や対処法を学ぶことが重要です。2014年度は、感染の危険にさらされやすい青少年を主な対象としてHIV/エイズと結核予防の研修を実施し、対象地域の住民

の12%にあたる3,097人が参加しました。

また、保健ボランティアに対して、障がいを持つ人々へのケアに関する研修会を行い、研修を受けたボランティアが定期的に障がいを持つ人々の家庭を訪問し、身体面だけでなく心のケアを行うという取り組みを行っています。



体験型ワークショップを通してHIV/エイズや結核について学ぶ研修参加者



ボランティアによる障がいを持つ人々への訪問活動



## 支援地域の女性のインタビュー

## 有機農法を学び実践しています

### Q. 子どもの頃学校に通いましたか。

小学校6年生を修了した後、非公式教育で高校まで勉強しました。勉強しながら写真の額を製造する工場で働き、150バーツの日給を稼いでいました。

### Q. 家族構成を教えてください。

両親と夫、子どもの5人家族です。

### Q. ADPのどのような活動に参加していますか。

有機肥料を使った農法についての研修に参加しました。有機肥料を使うようになって、肥料代が減り、野菜の安全性も高まったと思います。

### Q. 今の夢を教えてください。

子どもに大学まで教育を受けさせることと、学んだ有機農法に関する知識を広めることです。



有機農法で育てた野菜を収穫したヴィーナさん（32歳）

## ADPスタッフ・インタビュー



### Q.ADPでどのような仕事をしていますか。

主に子どもたちの成長報告やクリスマスカードの作成を担当しています。成長報告に貼る子どもたちの写真を撮るのは大変な作業なので、ほかのスタッフも手伝ってくれます。

### Q.2014年、仕事で大変だったことは何ですか。

これまでの手紙や写真での交流に加え、子どもたちのビデオを撮ってチャイルド・スポンサーの皆さまにお届けするという取り組みが始まりましたが、ビデオ撮影の時に恥ずかしがる子どもが多くて大変です。スタッフが子どもたちに明るく話しかけ、緊張をほぐしてから撮影を始めるなど、工夫が必要だと感じています。

### Q.WVで働く上で原動力となっているものは何ですか。

私たちは2人ともタブラヤ地域の出身なので、自分たちの地域が発展し、子どもたちが元気に成長するために働けることを嬉しく思っています。



バイクで通勤しているモッド(左)とラック(右)。この2人がインタビューに答えてくれました

## スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト



チャイルド・スポンサーへ送るクリスマスカードを書く子どもたち

チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。そのため、チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、さらに地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行っています。また、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、その支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。

## 会計報告

THA-191642

収支計算書 自2013年10月1日 至2014年9月30日

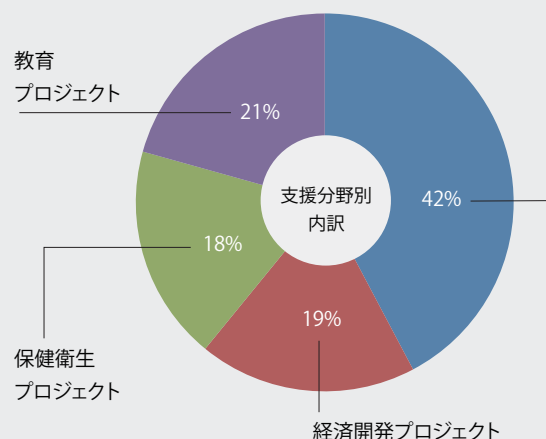
### プログラム支援額(単位:円)

チャイルド・スポンサーシップ	20,414,048
当期支援額	20,414,048
前期繰越金	2,387,154
プログラム支援額合計	22,801,202

### プログラム支出額

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	7,569,100
経済開発プロジェクト	3,338,835
保健衛生プロジェクト	3,303,014
教育プロジェクト	3,701,150
プログラム支出額合計	17,912,099
次期繰越額	4,889,103

### スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト



お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン  
 電話：03-5334-5351 (平日 9:30 ~ 17:00)  
 FAX：03-5334-5359

ワールド・ビジョン

検索

ホームページ：www.worldvision.jp  
 e-mail：dservice@worldvision.or.jp